上部 消化管（食道・胃・十二指腸）

内視鏡検査　予約票

ふりがな

様　　男 ・ 女

検査日時：　　月　　日　　時　　分　　時　　分 来院

【 注 意 事 項 】

１．検査前日

夕食は出来るだけ、午後９時までに済ませて下さい。それ以降は食べないで下さい。
水分（お水、さ湯、お茶、コーヒー、紅茶、果肉入り以外のジュース）は飲まれても構いませんが、アルコール分や乳製品（牛乳、ヨーグルト、チーズ等）は、絶対に取らないで下さい。

２．検査当日

朝食はとらないで下さい。上記の水分であれば、自由に飲んで構いません。
朝、血圧の薬を内服している方は７時までには、多めのお水で内服してきて下さい。
他のお薬の服用方法については、主治医にご相談して下さい。（自己判断による中止は不可）

３．検査後しばらくはお腹が痛くなる場合がありますが、これは検査の時に入った空気が溜まっている為です。しばらくすると『おなら』として排出されます。ご安心下さい。

４．検査に於いて色素を使用した場合、便や尿に青い色が付くことがありますが、問題はありません。

５．検査後は、のどに麻酔が効いていますので、１時間は水分や食事はとらないで下さい。
その後、一口ほど水を飲んで違和感がなければ食事をとって結構です。

６．組織を採取した場合には、消化の良い食事をとって下さい。

７．検査後、体調に異常を感じた場合は、当院へご連絡下さい。

８．鎮静剤や鎮痛剤は必要に応じて使用することがあります。
その為検査当日は、自転車・車・バイクの利用はせず、公共交通機関等をご利用下さい。

９．検査内容によりお待ちいただく時間やお呼びする順番が前後する場合がありますが、ご了承下さい。

１０．病院１階の **受付窓口** で受付をして下さい。

１１．検査予約日時にご来院出来ない場合は、お早めにご連絡下さい。

社会福祉法人　浅草寺病院　医療連携室　電話 03－３８４１－３３３０

上部消化管内視鏡（経口・経鼻）検査に関する説明・同意書

説明医師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【検査目的】

上部消化管とは、食道・胃・十二指腸を指します。これらの場所にできる病気（炎症・潰瘍・ポリープ・がん・食道静脈瘤など）を見つけ、適切な治療方法を考える為に行います。

【検査の内容・方法について】

検査前までに使用する機器の適切な選択と検査後消毒のため、事前にウイルス等の感染症（B型肝炎、C型肝炎・梅毒）を調べる為の血液検査をします。検査時は、胃の中を見やすくするシロップを飲んでから、のど（鼻くう）を麻酔薬で麻酔します。内視鏡を口（経口時）または鼻くう（経鼻時）から挿入し、上部消化管をまんべんなく観察します。必要時には小さな組織を採取して、顕微鏡検査で良性、悪性の判断（病理組織検査）やピロリ菌の検査を行います。尚、通常検査では鎮静剤は使用しませんが、ご希望がある場合、または医師の判断により使用する場合があります。希望がある場合は、鎮静剤使用の注意事項（別紙）を参照頂き、十分理解したうえでスタッフに申し出てください。
（当日の症状など状況により鎮静剤使用を行えない場合もあります。）

【検査により起こり得る偶発症】

内視鏡検査には、稀に以下のような偶発症が起こりえます。

①、のどの麻酔薬によるアレルギー反応（じん麻疹、血圧低下ーショック、呼吸障害）
②、内視鏡操作により生じる出血（カメラの胃粘膜接触による出血、のど、鼻の出血、組織採取に伴う出血）
③、内視鏡操作により生じる消化管穿孔・縦隔気腫（緊急手術を要することがあります）
④、極めて稀ですが、検査前からあった病気（脳血管障害、心臓疾患など）の悪化

日本消化器内視鏡学会が調査した近年の全国集計では、偶発症の頻度は、0.005%、死亡率は、0.00019%と報告されています。検査に置かれましては細心の注意を払いますが、万一偶発症が発生した時には、外科的処置を含めた最善の処置を致します。
以上、上部消化管内視鏡検査の説明に関して、ご了承いただける場合は、下記同意書欄にご署名ください。

尚、書類には同意されたとしても検査が開始されるまでは、いつでも撤回が可能です。

同意書

社会福祉法人　浅草寺病院　病院長　殿

1．私は、上部消化管内視鏡検査の目的、方法、偶発症などについての説明書の記載事項を読み、また医師からの説明にて、その内容を理解し了承しました。

2．私は内視鏡の感染防止の為の血液検査の必要性について、理解し了承しました。

以上、予定される検査及び関連事項について、よく理解できましたので、検査の実施を申し込みます。

年　　月　　日

患者（自署）　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※自署の場合は押印不要です

代理人　続柄＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

社会福祉法人　浅草寺病院　医療連携室　　電話　03-3841-3330

消化管内視鏡検査時の抗凝固薬・抗血小板薬の取扱について

内視鏡検査の際、抗凝固剤、抗血小板剤を服用されていますと組織採取（生検）やポリープ切除などの処置を施行する際、出血が止まりにくくなる可能性があります。従ってこれらの薬を服用されている方は、内容・症状により検査前に一時的に休薬や変更（置換）をお願いする場合があります。但し、可能性は低いですが、休薬や変更（置換）により血栓・塞栓症を発症する可能性もあります。

現在内視鏡学会ガイドラインでは服用されている原因疾患及び検査・処置内容により休薬の有無に関して、基準が設けられています。
この基準を参考に休薬や変更（置換）について事前に主治医と相談していただく必要があります。通常観察のみでの休薬や変更（置換）の必要は御座いません。他院や他科から抗凝固剤、抗血小板剤を処方されている場合は、必ず確認のうえ検査前までに当院医師、スタッフに申し出て頂く必要があります。

以上より主治医（処方医）と相談後、休薬・変更（置換）が必要な場合には、主治医が判断し以下の通り指示致しますので、ご確認下さい。再開については、内視鏡施行医が当日検査終了後に判断致します。

【今月（　　月　　日 ）の内視鏡検査時に休薬・変更（置換）する薬剤及び期間】

薬剤名	
中止日	年　　月　　日　㊞
再開日	年　　月　　日　㊞

内視鏡検査時の鎮静剤使用に関する説明

内視鏡検査の際に、苦痛を感じられる方もいらっしゃいます。
その苦痛を鎮静剤の使用にて軽減し、検査を行うことが出来ますが、その効果にも個人差があります。

当院では原則的に鎮静剤を使用しておりませんが、どうしても、鎮静剤の使用を希望される方については、検査当日に施行医と相談して頂き使用することは可能です。

尚、鎮静剤使用では、以下に挙げるような偶発症が増える可能性があります。

低血圧、心臓、肺疾患の症状が深刻な方、高齢の方には、医師の判断で鎮静剤が使用できないことがありますので、予めご了承ください。

〔鎮静剤の偶発症〕

（消化器内視鏡学会による全国調査では、鎮静剤使用時の偶発症発生率0.0013%、死亡率0.000024%と報告されています。）

鎮静剤注射部の炎症、静脈炎、血管痛、アレルギー、血圧低下、不整脈誘発、呼吸抑制（呼吸停止）、酸素低下、覚醒遅延（目が覚めにくい）、健忘（記憶がなくなる）。

〔鎮静剤使用時の注意事項〕

覚醒（目が覚める）後も鎮静剤の影響が残る場合があります。検査後、約1時間は病院内で休んで頂く必要があります。また検査当日は、自動車、バイク、自転車などの運転はできません。可能であれば、検査当日は、どなたかに付き添っていただくことが望ましく、特に70歳以上の方につきましては、必ずどなたかが付き添って頂く必要があります。

社会福祉法人　浅草寺病院　医療連携室　　電話　03-3841-3330